

第6学年 道徳学習指導案

日時 令和4 年10月1日(土)
多摩市立東寺方小学校6年2組
授業者 橋本 禎之

1. 資料名 「ここを走れば」 内容項目 (C12 規則の尊重)
2. ねらい 法やきまりを支えているのは人々のどんな考えかについて考えさせ、法やきまりの意義を理解したうえで、進んで守ろうとする心情を育てる。

3. 展開

	学習活動 主な発問○と予測される児童の反応・	指導上の留意点
導入 10分	1. 法やきまりについての課題意識をもつ。 ○きまりを破ってしまいそうなきで、どんなときだろう。 ・自分一人ぐらいよいだろうと思って。 ・だれも見えていないとき。	・学習の見通しをもたせたうえで、めあてを提示する。
展開 30分	2. 「ここを走れば」を読んで話し合う。 ○父が路側帯を走らなかったとき、「ぼく」はどう思ったでしょう。 ・少しでも早く駆けつけたいので、規則を破って路側帯を走ったらどうか。 ・他の人たちもやっているの、こんなときだからこそ路側帯を走って渋滞を抜きたい。 ○父の涙を見ながら、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。 ・父は、自分たち以上に早く祖父の元へ着きたかったと思うが、何を最優先すべきか考え、苦しい判断をしてここへ来た。	・場面を想起しやすいよう、話の状況を整理しながら進める。また、場面絵などを必要に応じて提示する。 ・父の涙に着目させ、今回の価値について追究する。
	◎法やきまりは、人々のどのような考えによって支えられているのだと思いますか。 ・法やきまりがなければ、他者に害が及んでしまう。 ・法やきまりがなければ、安全に、安心して生活することができない。 ・みんなのための法律だから、みんなが守らなければ社会が乱れる	・法やきまりが、個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためにあることを、しっかり自覚させたい。
終末 5分	3. 自分たちの生活を振り返る。 ○きまりを守ることに對して、自分自身はどのようにしていますか。 ・人がいなくても、法律やきまりは絶対に守るようにしている。 ・このくらいならいいと自分勝手に考えて、破ってしまったことがある。	・自分自身について、できていることや、できていないことを振り返らせ、自分自身との関わりで、価値を捉えさせる。